



理研ビタミン株式会社

証券コード：4526

2022年度 第2四半期 決算説明会

2022年11月24日

1. 2022年度第2四半期業績

2. 2022年度通期の見通し

価格改定と為替で増収

- 原材料価格高騰を受けた価格改定を進め、全セグメントで売上高が増加
- 連結売上高の増加額50億円のうち、15億円は為替影響

海外事業が利益を牽引

- 海外事業において計画を上回る価格改定を実施し、営業利益が大幅に上振れ
- 増収増益の反面、自社・グループ会社工場全体での生産数量は減少

純利益は大幅に減少

- 親会社株主に帰属する四半期純利益は前期の連結除外の影響で大幅に減少
- キャッシュを伴わない利益減であり、営業キャッシュフローはプラス

営業利益・経常利益ともに上期の過去最高を更新

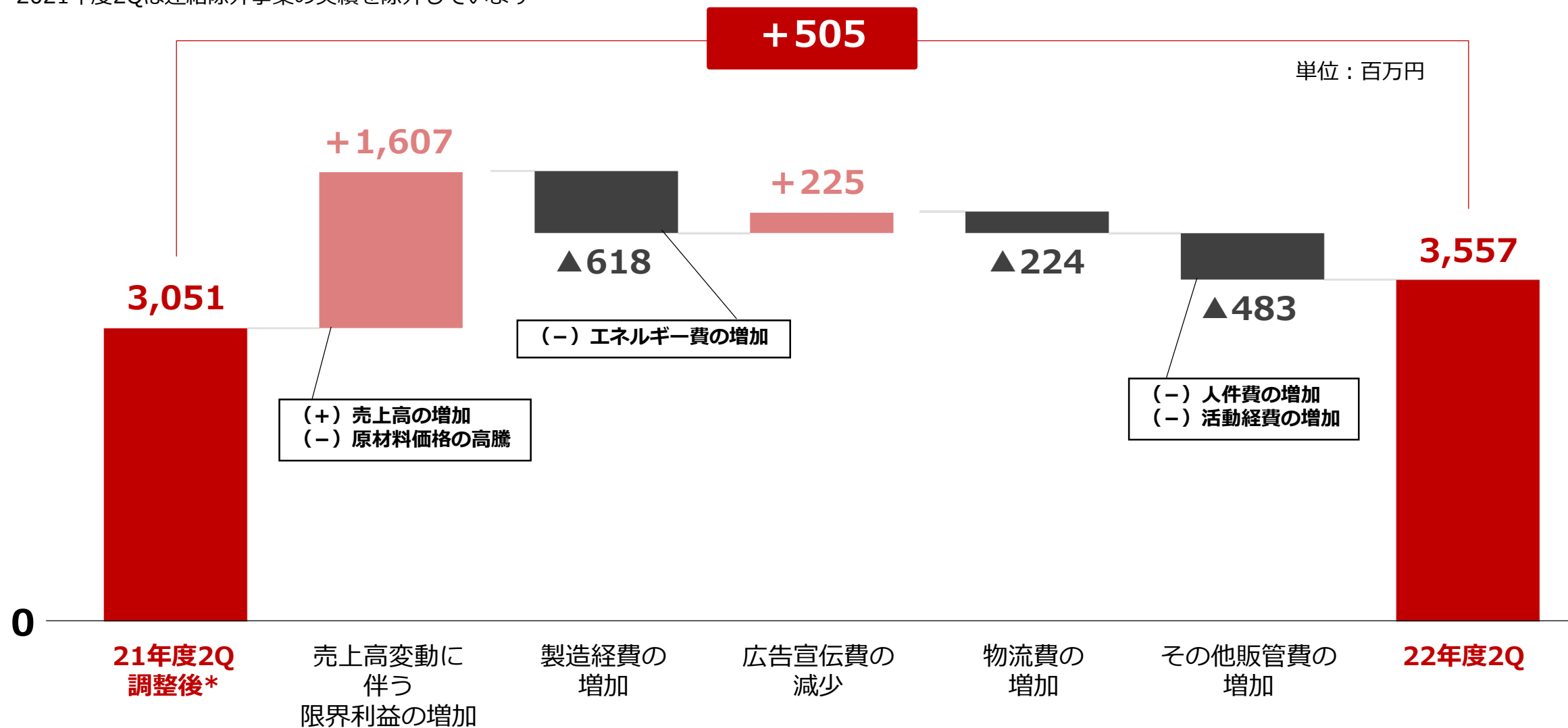
単位：百万円

	2021年度 第2四半期	2022年度 第2四半期	前年同期比		業績予想との比較	
			増減額	増減率	予想(8/10)	差額
売上高	38,603	43,631	+5,028	+13.0%	42,000	+1,631
営業利益	2,396	3,557	+1,160	+48.4%	2,800	+757
営業利益率	6.2%	8.2%	+2.0pt		6.7%	+1.5pt
経常利益	2,518	4,149	+1,631	+64.8%	3,200	+949
親会社株主に帰属する 四半期純利益	17,162	3,146	▲14,016	▲81.7%	2,500	+646

(連結除外事業を除く)	2021年度 第2四半期	2022年度 第2四半期	前年同期比		青島福生食品 (連結除外事業)	
			増減額	増減率	2021年度	2022年度
売上高	38,203	43,631	+5,427	+14.2%	399	-
営業利益	3,051	3,557	+505	+16.6%	▲654	-
営業利益率	8.0%	8.2%	+0.2pt		-	-

営業利益の要因別増減

*2021年度2Qは連結除外事業の実績を除外しています



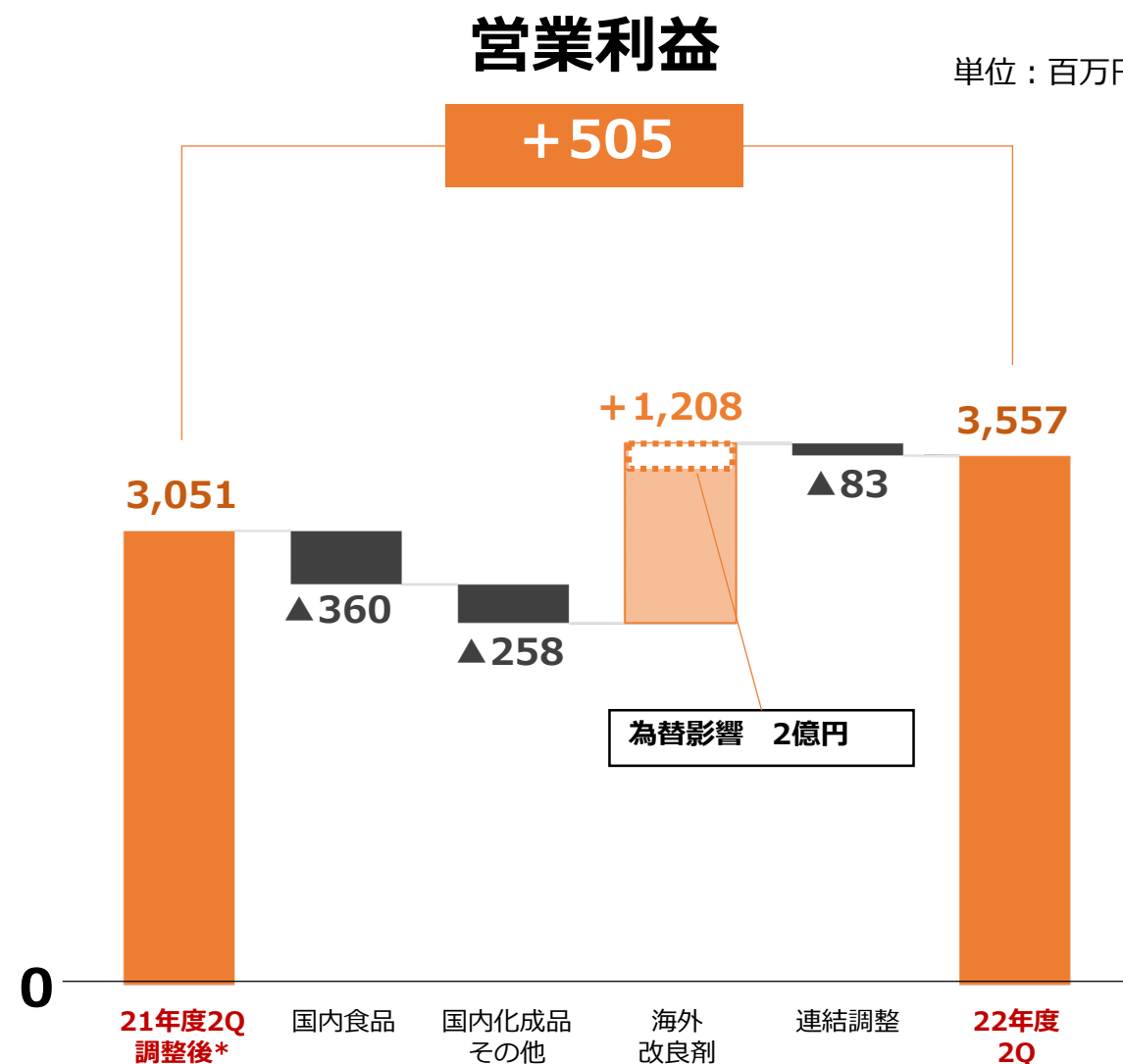
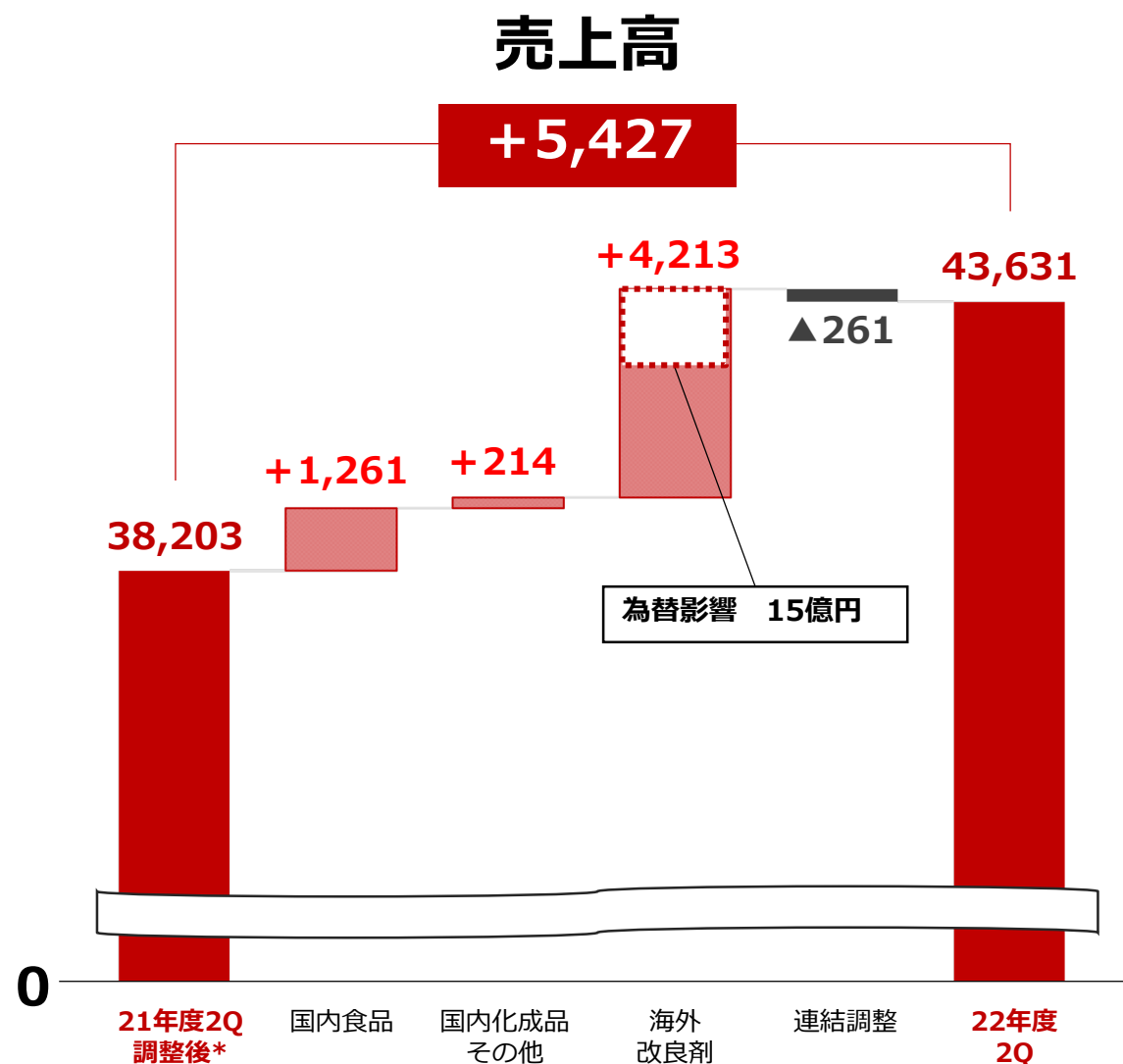
家庭用を除き増収、価格改定を進めた海外事業が利益を牽引

単位：百万円

	売上高				営業利益			
	2021年度 第2四半期	2022年度 第2四半期	前年同期比		2021年度 第2四半期	2022年度 第2四半期	前年同期比	
			増減額	増減率			増減額	増減率
国内食品事業	26,968	28,230	+1,261	+4.7%	2,500 9.3%	2,140 7.6%	▲360 ▲1.7pt	▲14.4%
家庭用食品	6,658	6,368	▲289	▲4.3%	/	/		
業務用食品	9,087	9,416	+329	+3.6%				
加工食品用原料等	11,223	12,445	+1,221	+10.9%				
国内化成品その他事業	3,277	3,492	+214	+6.6%	335 10.2%	77 2.2%	▲258 ▲8.0pt	▲77.0%
海外事業	8,962	12,775	+3,813	+42.6%	▲263 -	1,599 12.5%	+1,863 -	-
海外改良剤	8,562	12,775	+4,213	+49.2%	391	1,599	+1,208	+308.9%
青島福生食品*	399	-	-	-	▲654	-	-	-

*青島福生食品は2021年6月に持分譲渡し、2021年度1Qで連結から除外しました

上期売上高・営業利益のセグメント別増減

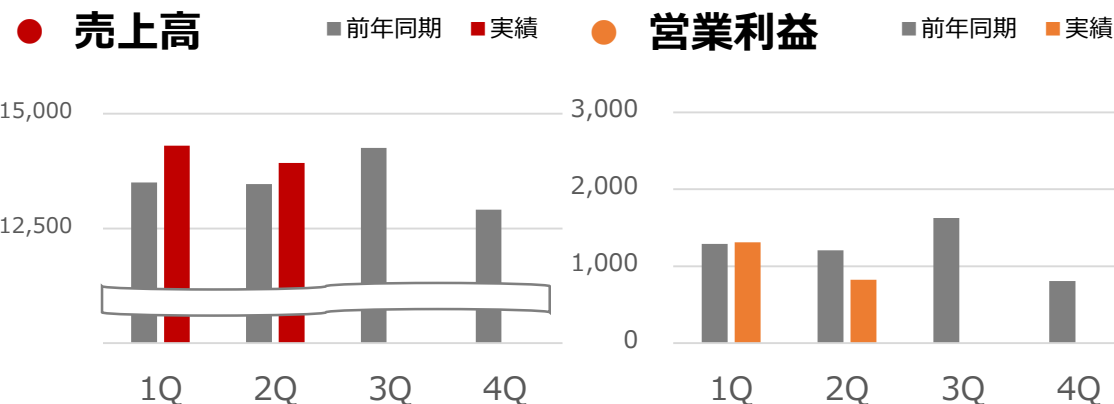


*2021年度2Qは連結除外事業の業績を除外しています

国内食品事業：外食向け需要がやや回復、加工食品用の増収要因は価格改定

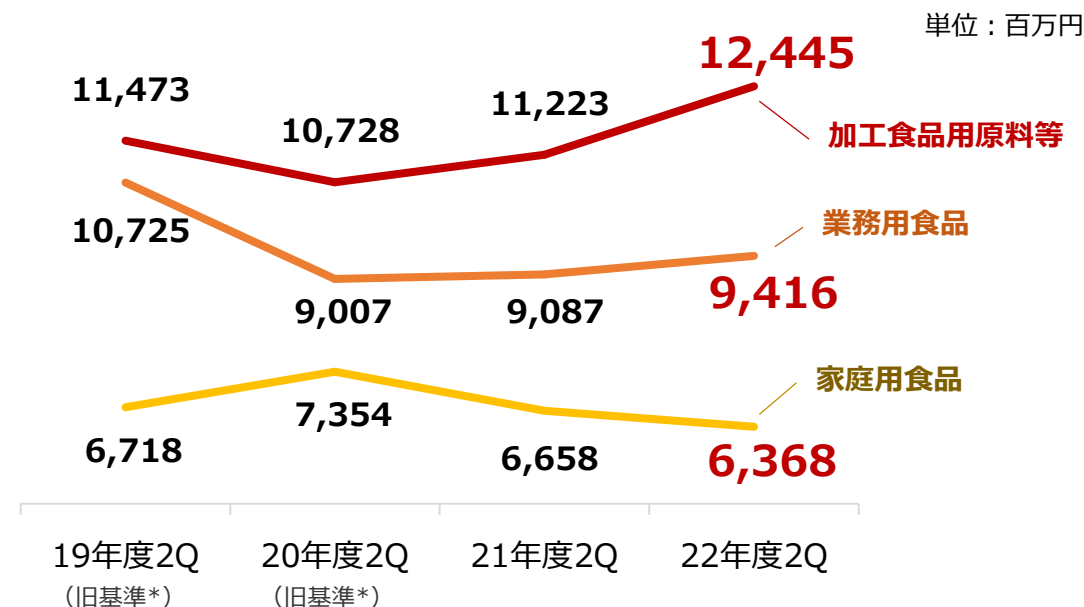
国内食品事業

単位：百万円	2021年度 2Q	2022年度 2Q
売上高	26,968	28,230
営業利益	2,500	2,140



売上高の推移

*21年度より「収益認識に関する会計基準」等を適用しています。
19年度、20年度は旧会計基準に基づく数値です。



売上高

- 家庭用は乾燥わかめ、わかめスープが巣ごもり需要の反動と価格改定の影響で販売減
- 業務用は行動制限の緩和により外食産業向けが伸長

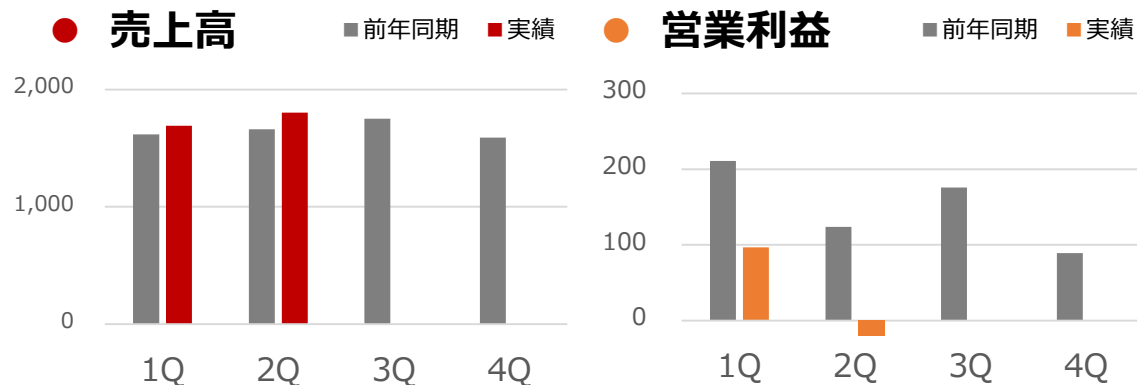
営業利益

- 価格改定は計画並みの進捗。不採算品目の見直しも進んだが、コスト上昇のカバーには時間を要する
- ヘルスケア部門はクロセチンを中心とした機能性食品用原料が好調を維持し利益貢献

国内化成品その他事業：2Qは営業損失 海外事業：大幅な上振れ

国内化成品その他事業

単位：百万円	2021年度 2Q	2022年度 2Q
売上高	3,277	3,492
営業利益	335	77



売上高

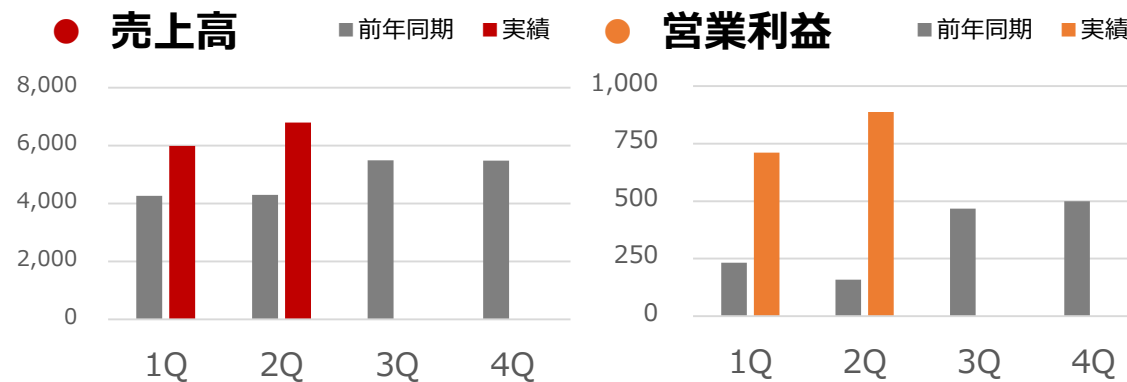
- 自動車産業をはじめ、多くの業界で需要低迷
- 食品包装材向けの販売は好調が続く

営業利益

- 価格改定を進めるもコスト上昇分をカバーできず
- 前期の設備投資で減価償却費負担が増加

海外事業（改良剤）

単位：百万円	2021年度 2Q	2022年度 2Q
売上高	8,562	12,775
営業利益	391	1,599



- 販売数量は減少も、価格改定と円安影響で増収
- エリア別では北米の伸びが顕著

- 価格改定効果が計画を上回り、利益は大幅に上振れ

四半期純利益の大きな減少は前期連結除外の影響

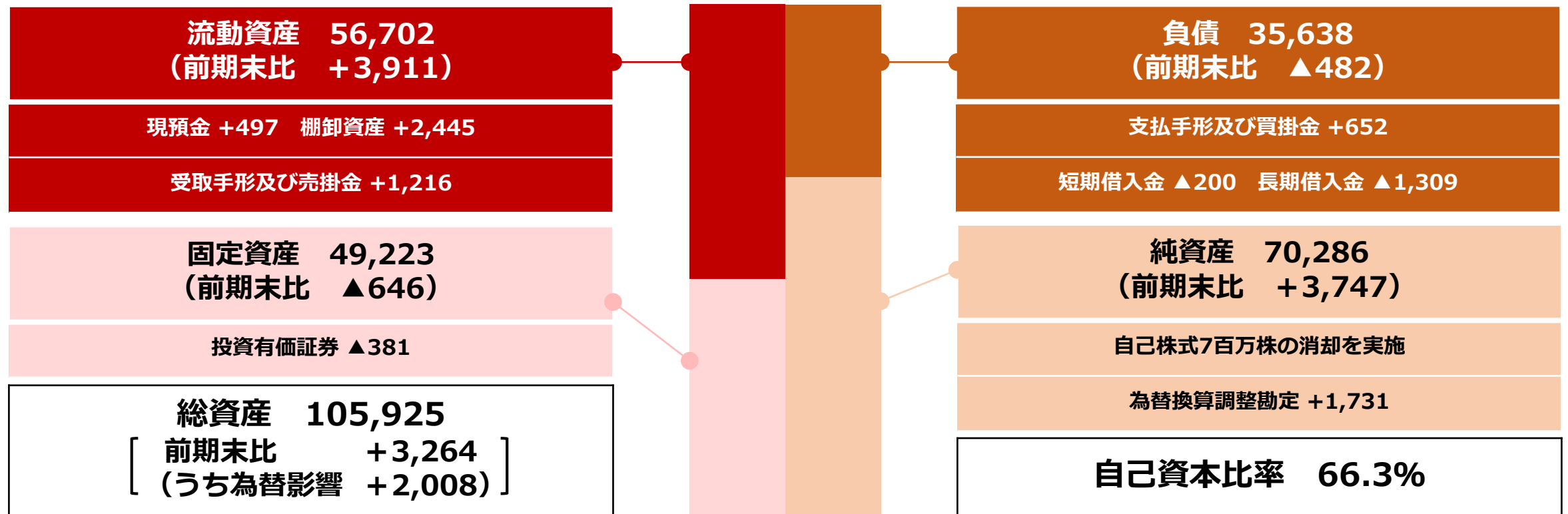
単位：百万円

	2021年度 第2四半期	2022年度 第2四半期	前年同期比	主な増減要因 (カッコ内は前年同期比)
営業利益	2,396	3,557	+1,160	
営業外収益	450	715	+265	為替差益の増加（+265）
営業外費用	328	123	▲205	デリバティブ評価損の剥落（▲114）
経常利益	2,518	4,149	+1,631	
特別利益	12,126	103	▲12,022	関係会社出資金売却益の剥落（▲12,076） 投資有価証券売却益の計上（+93）
特別損失	175	27	▲147	
税引前利益	14,469	4,225	▲10,243	
法人税等	▲2,707	1,077	+3,785	前年同期は連結除外に伴い、法人税等がマイナス計上
非支配株主に帰属する 四半期純利益	14	1	▲12	2021年12月、リケビタ・マレーシアを完全子会社化
親会社株主に帰属する 四半期純利益	17,162	3,146	▲14,016	

円安の影響で総資産が増加

- 株価変動と一部株式の売却で投資有価証券がやや減少
- 利益剰余金の減少は自己株式の消却によるもの

単位：百万円



四半期純利益は減少も、営業CFは増加

- 連結除外に伴う支出の剥落などによりFCFは18億円のプラス
- 前年同期は青島福生食品の借入金返済により財務CFの支出が大

単位：百万円

	2021年度 第2四半期	2022年度 第2四半期	前年同期比	主な増減要因 (カッコ内は前年同期比)
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,478	3,098	+ 619	貸倒引当金の増減額 (▲507) 法人税等の支払額又は還付額 (+ 1,239)
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲4,003	▲1,285	+ 2,717	有形固定資産の取得による支出 (+ 716) デリバティブ解約による支出 (+ 500) 連結の範囲の変更を伴う関係会社出資金の売却による支出 (+ 445)
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲9,645	▲2,343	+ 7,302	短期借入金の純増減額 (+ 9,449)
現金及び現金同等物の四半期末残高	7,927	15,143	+ 7,216	

1. 2022年度第2四半期業績

2. 2022年度通期の見通し

持続可能な社会を スペシャリティな製品とサービスで支え 成長する会社になる

2022-24年度中計 基本方針

経営基盤（ガバナンス）の強化

アジア・北米での展開を加速

国内の深掘りと新領域への挑戦

サステナブル経営の推進

社内への浸透

社長による説明会（5/13、オンライン）

社内報での周知

事業所での意見交換会



通期予想は据え置き

- 下期は市場環境が厳しさを増すと予想し、通期の連結業績予想は据え置く
- 上期の状況を踏まえ、セグメント内訳は修正

国内は価格改定を継続

- 価格改定と不採算品の見直しを継続するが、コストアップ分のカバーは難しい見込み
- 市場や取引先の変化を見逃さず、既存領域に留まらない提案を強化する

海外は揺り戻しを懸念

- 海外事業の上期は、コモディティ品の値上げによる一時的な要因が大きい
- 原料相場の低下や海外の景気悪化など、上期と異なる市場環境に対応していく

8月10日発表の予想を据え置き

- コスト上昇の影響は当初予想を上回る
- ゼロコロナ政策を継続する中国市場を中心に、海外事業は苦戦
- 為替前提は1ドル=116円から135円に変更

単位：百万円	2021年度 通期	2022年度 通期予想	前期比	
			増減額	増減率
売上高	79,231	86,000	+6,768	+8.5%
営業利益	5,840	5,700	▲140	▲2.4%
経常利益	6,182	6,100	▲82	▲1.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	21,582	4,700	▲16,882	▲78.2%
ROE	38.3%	6.8%		

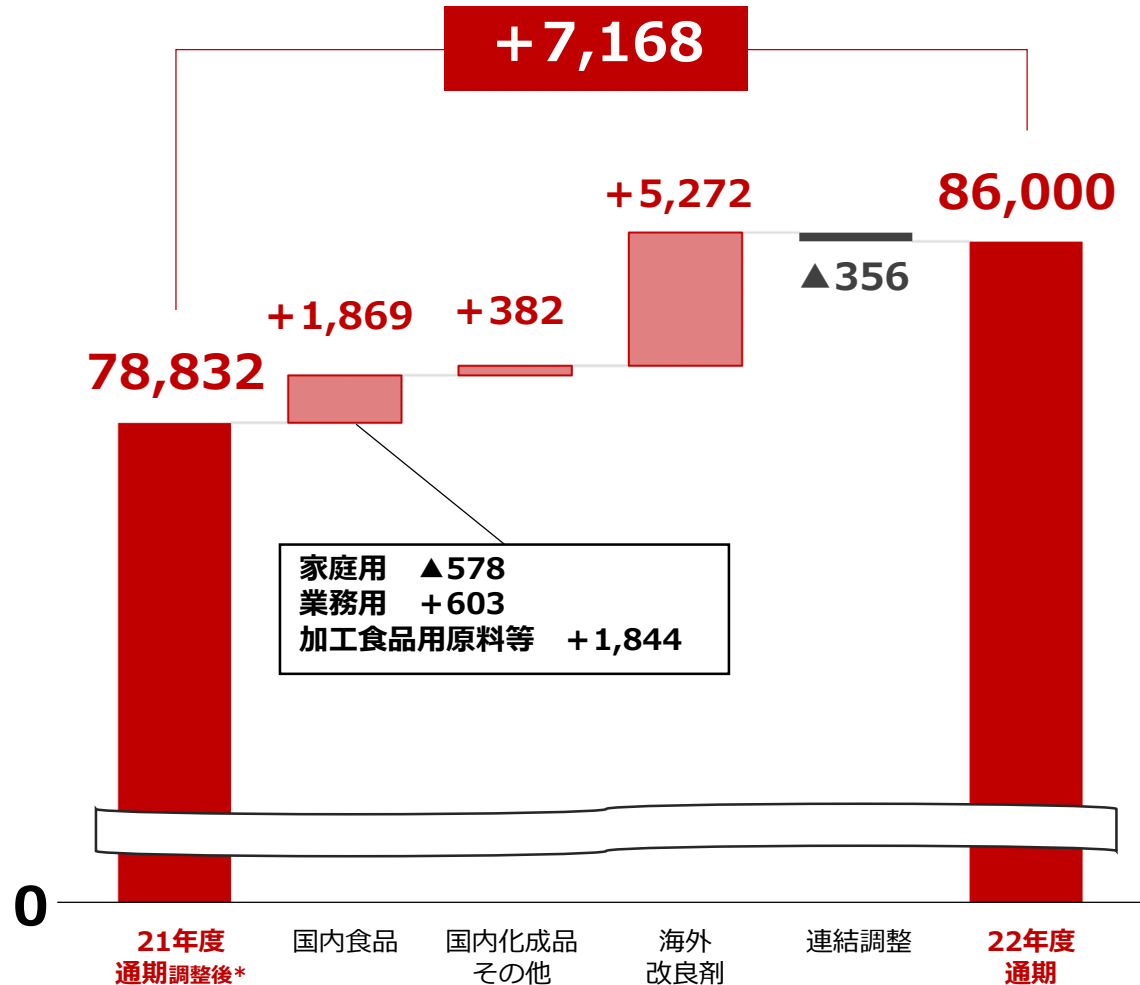
国内は増収減益、海外営業利益は過去最高見込

単位：百万円

	売上高				営業利益			
	2021年度 通期	2022年度 通期予想	前期比		2021年度 通期	2022年度 通期予想	前期比	
			増減額	増減率			増減額	増減率
国内食品事業	54,130	56,000	+1,869	+3.5%	4,938 9.1%	3,920 7.0%	▲1,018 ▲2.1pt	▲20.6%
家庭用食品	12,928	12,350	▲578	▲4.5%				
業務用食品	18,196	18,800	+603	+3.3%				
加工食品用原料等	23,005	24,850	+1,844	+8.0%				
国内化成品その他事業	6,617	7,000	+382	+5.8%	602 9.1%	330 4.7%	▲272 ▲4.4pt	▲45.2%
海外事業	19,926	24,800	+4,873	+24.5%	705 3.5%	1,900 7.7%	+1,194 +4.2pt	+169.4%
海外改良剤	19,527	24,800	+5,272	+27.0%	1,360	1,900	+539	+39.7%
青島福生食品*	399	-	-	-	▲654	-	-	-

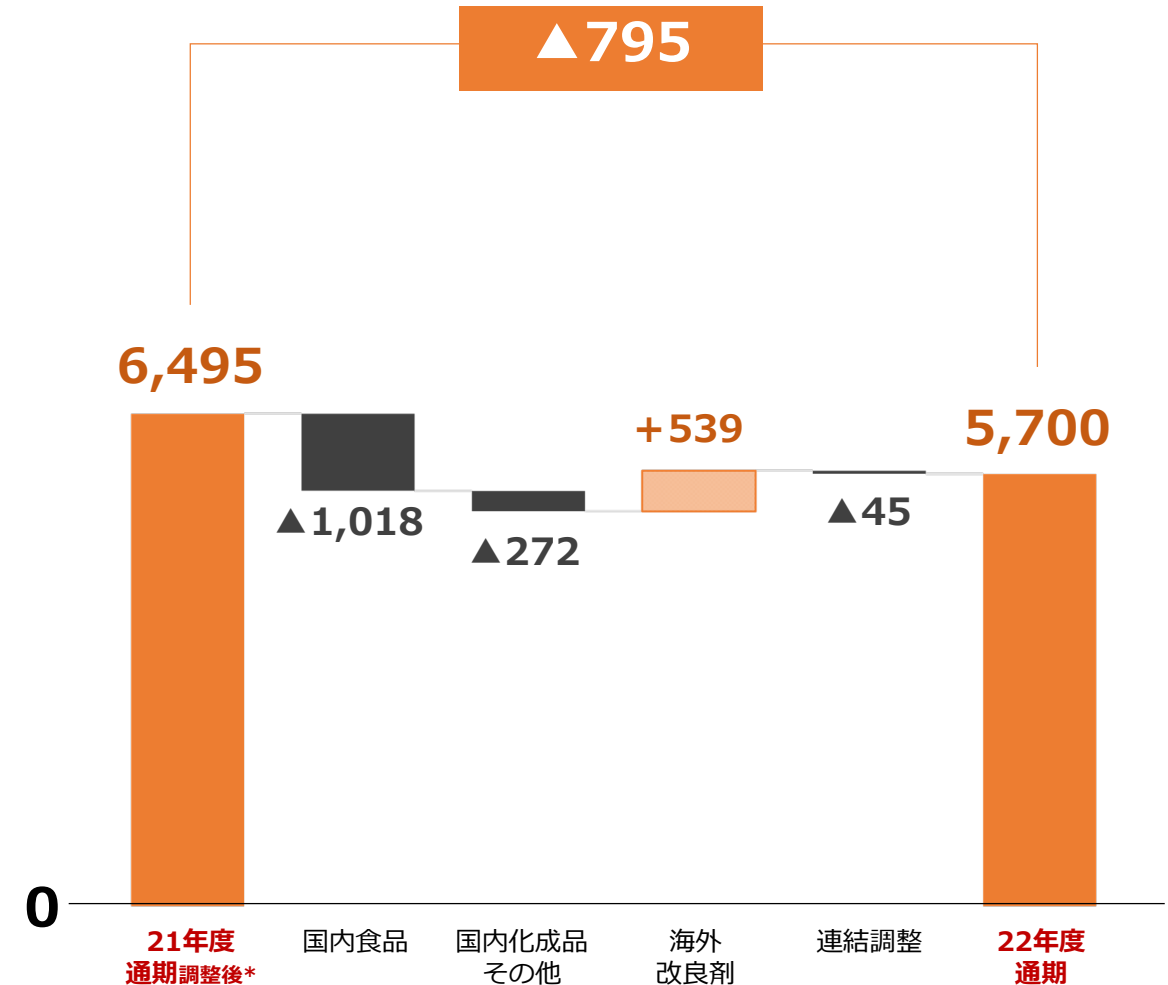
通期売上高・営業利益のセグメント別増減

売上高



営業利益

単位：百万円



*2021年度通期は連結除外事業の業績を除外しています

価格改定に注力しながら、既存領域に留まらない提案を強化

家庭用

新カテゴリ創出と既存品の需要拡大

- 新商品「ふりかけるザクザクわかめ」「オートミールスープ」の拡販
- 「素材力だし®」の8年ぶりのTVCMによる需要喚起 ⇒ P21



▲オートミールスープ

業務用

食品・改良剤・ヘルスケアを持つ強みを活かす

- 老健市場・中食市場への提案強化
- 国内大手メーカーの再開拓と深掘り ⇒ P25



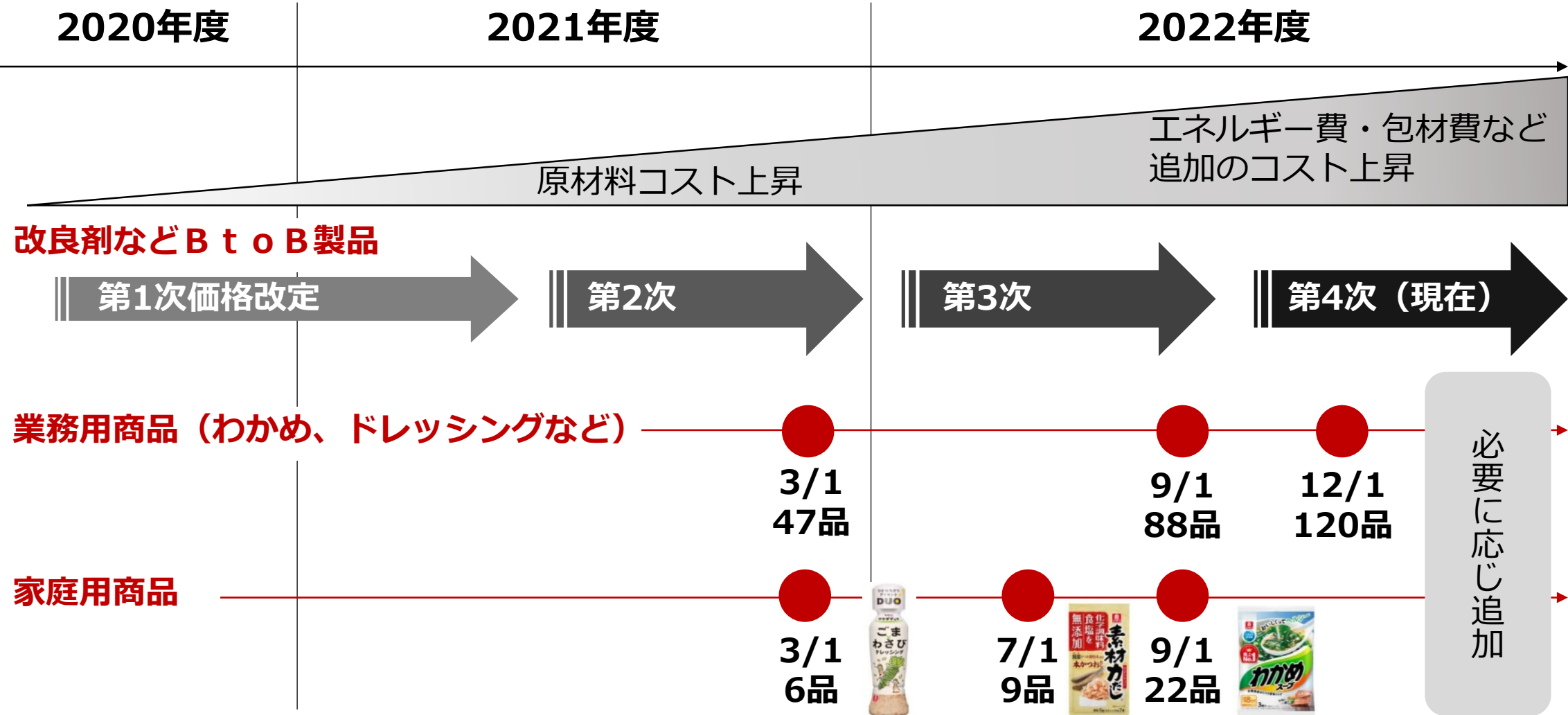
▲業務用 まぜそばのたれ

加工食品用原料等

- 変化する課題・ニーズに対応した提案で価格改定によるマイナスをカバー
- 好調が続くビタミン・機能性食品用原料の販売に注力 ⇒ P23

価格改定や
不採算製品の
見直しを
引き続き進める

急激なコスト上昇に合わせ、下期も追加の価格改定を実施



スペシャリティを活かした商品展開

新商品

「ふりかけるザクザクわかめ 韓国風ごま油風味」

- 原料調達に強みのあるわかめを活用
- 物価高の中でも比較的価格が安定している
米飯関連市場にアプローチ
- 日経トレンディ誌「2023ヒット予測100」選出



参考小売価格：330円/袋（税抜）
当初販売計画：7千万円/年



既存商品

「素材力だし®」シリーズ TVCM放映 (放映期間：10/22～11/6)

- 食塩無添加で独自性の高い顆粒だしの素
- ユーザーの評価は高いが知名度が低く
今後の伸びしろが大きい
- 子育て世代をターゲットに販促企画も実施



マイクロカプセルがポテトチップスに初採用

- ヘルスケア部門の加工技術を、食品部門のシーズニングに応用
- 「成分を閉じ込めて、狙った条件で放出する」マイクロカプセルの性質が時間差で肉の味わいがおしよせてくるようなおいしさの表現に寄与
- 今後も部門を超えた提案機会を模索

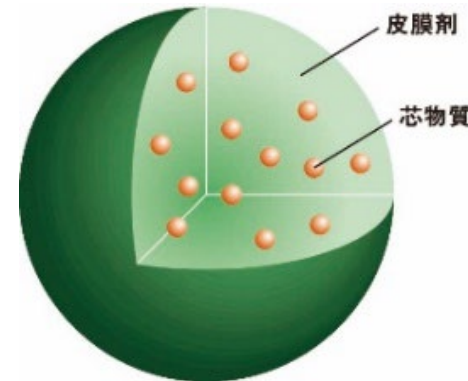
■ 採用商品



カルビー「スーパーポテト おしよせるガーリックステーキ味」
(左から70 g、56 g) ※2022年10月発売

■ マイクロカプセルとは

<イメージ図>



※実物の直径は1mm未満

- ・ 不安定なビタミンAを安定化させる目的で開発した技術
- ・ 現在は主に医薬品や健康食品の有効成分の安定化、不快味のマスキング、徐放性の付与等に活用
- ・ 食品分野では香料の揮発防止等の目的でガム、タブレット菓子等への採用実績あり

生産体制を強化し、好調分野の拡大を狙う



ビタミン製品

- フィットネスブーム、健康志向の影響でプロテインや完全栄養食への採用が増加
- 社名にもあるビタミンの製剤化技術に強み
- ビタミンミックス生産設備増強を予定（中期経営計画に織込済み）



Crovit[®]

クチナシ由来成分「クロセチン」

（商品名：クロビット）

- 共働き、在宅勤務の増加で「睡眠」「疲労」「アイケア」等のニーズが増加
- 2021年度以降、計画を大幅に上回る売上
- 増産体制の構築を検討中

クロセチン

- ・ クチナシ果実に含まれる色素成分
- ・ 良質な眠りと目のピント調節をサポート
- ・ 機能性表示食品の機能性関与成分として届出済



国内化成品：既存分野の価格改定を急ぎ、環境対応製品にシフトしていく 海外：上期と異なる市場環境に対応

国内 化成品 その他

- 3Qは価格改定に注力、早期の黒字回復を図る
- 化粧品向け新商品の投入
- バイオマスプラや生分解性プラ向け改良剤の提案を継続

バイオサイザー®▶



海外 改良剤

市場環境の変化

原料相場の下落

中国の需要低迷、価格競争激化

東南アジアでは国ごとに景況感に差

米国も景気の先行きに不安

- 地域ごとの取り組みによる利益確保 ⇒ P25
- グループの開発・営業が連携し、スペシャリティ品の提案を推進

シンガポール
APセンター



日本
A&Iセンター



連携

上海
APセンター



ヨーロッパ

- 上期はコモディティ品の値上げにより大幅増も、下期は市況に合わせた動きが必要
- 環境対応製品などでの成長を目指す

中国

- ゼロコロナ政策による需要減、価格競争の激化など厳しい状況だが収益確保を図る
- 突発的な地区封鎖が生産や物流に影響を与える可能性あり

北米

- 上期は経済リオープンの影響で好調も下期は景況感悪化、高付加価値品の提案強化
- エキスに特化したWebサイトを開設

日本からの支援

- 開発部門による現地商談同行

東南アジア

- 各国の景気の状態に合わせ、高付加価値品の提案に注力
- 主力工場であるリケビタ・マレーシアの生産性改善

韓国・台湾

- 食品は堅調、苦戦の化成品用改良剤をてこ入れ

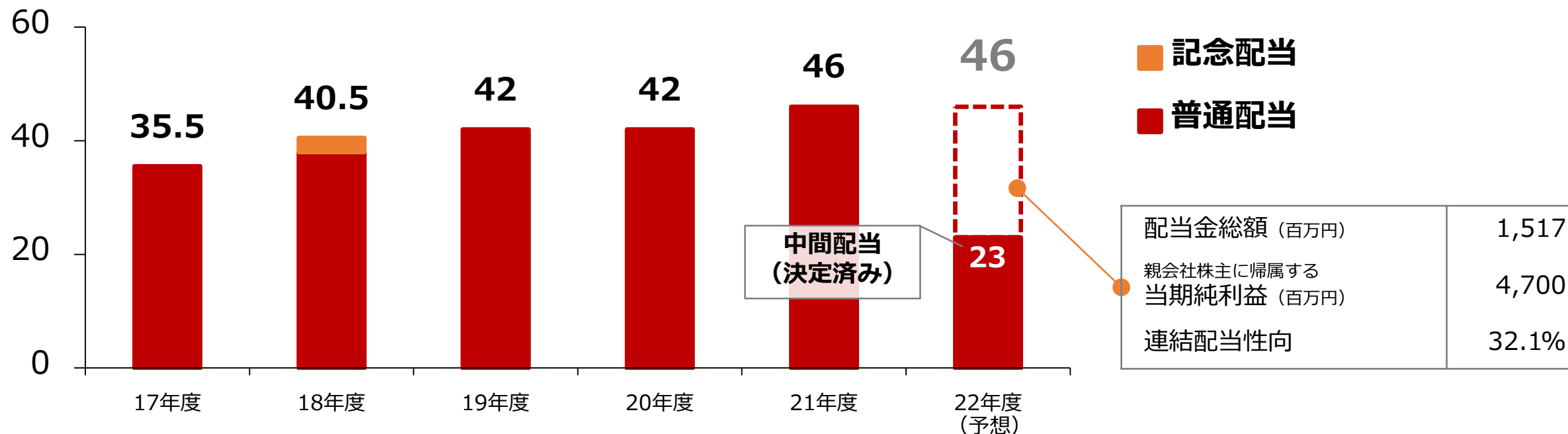


<https://rikenvitaminusa.com/>

<配当方針>

当社は、株主の皆様への利益還元を経営上の重要課題の一つと考えており、当社の経営環境、業績、財務状況、株主還元性向、経営基盤強化のための内部留保等を総合的に勘案しながら、**連結配当性向30%以上**を目安に安定的な配当を継続して実施していくことを基本方針といたします。

1株当たり年間配当金(円)



*当社は2020年4月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。
上記グラフ中の1株当たり年間配当金は、株式分割後の水準で記載しています。

政策保有株式の縮減

- 上期に5銘柄を売却、引き続き縮減を進める

TCFD

- 4月にT C F D提言に賛同、C S Rレポート2022にて初の開示
https://www.rikenvitamin.jp/csr/library/report/pdf/rikenvitamin_csr_2022_CUD.pdf

G H G 排出量の削減

- 2030年40%減目標（Scope1.2 2018年度比）に向け、太陽光発電の導入やグリーン電力の購入開始

環境負荷低減

- 容器包装の環境対応について、社内横断プロジェクトを開始予定

持続可能な社会を
スペシャリティな製品とサービスで支え
成長する会社になる



理研ビタミン株式会社

この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれます。
それら将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに
当社が計画・予測したものです。
実際の業績などは今後の様々な条件・要素により、この計画などとは異なる場合があり、
この資料はその実現を確約したり、保証するものではありません。

お問い合わせ先

経営企画部 広報・I R室 井上・清水

T E L : 03-5362-1315

補足資料

中期経営計画 業績目標数値

(百万円)		2021年度実績			2022年度			2023年度目標	2024年度目標
		上期	下期	通期	上期実績	下期予想	通期予想	通期	通期
売上高	国内食品事業計	26,968	27,161	54,130	28,230	27,769	56,000	59,300	61,000
	家庭用食品	6,658	6,270	12,928	6,368	5,981	12,350	13,700	14,300
	業務用食品	9,087	9,108	18,196	9,416	9,383	18,800	20,000	20,700
	加工食品用原料等	11,223	11,782	23,005	12,445	12,404	24,850	25,600	26,000
	国内化成品その他事業	3,277	3,340	6,617	3,492	3,507	7,000	8,000	8,500
	海外事業計	8,962	10,964	19,926	12,775	12,024	24,800	23,800	25,800
	海外改良剤	8,562	10,964	19,527					
	(青島福生食品)	399	-	399					
	調整額 (セグメント間消去)	▲ 605	▲ 837	▲ 1,443	▲ 867	▲ 934	▲ 1,800	▲ 1,100	▲ 1,300
	連結合計	38,603	40,628	79,231	43,631	42,368	86,000	90,000	94,000
営業利益	国内食品事業	2,500	2,437	4,938	2,140	1,779	3,920	5,400	6,200
	国内化成品その他事業	335	266	602	77	252	330	700	800
	海外事業	▲ 263	968	705	1,599	300	1,900	1,000	1,400
	海外改良剤	391	968	1,360					
	(青島福生食品)	▲ 654	-	▲ 654					
	調整額 (セグメント間消去)	▲ 176	▲ 228	▲ 404	▲ 260	▲ 191	▲ 450	▲ 400	▲ 400
	連結合計	2,396	3,444	5,840	3,557	2,142	5,700	6,700	8,000
経常利益		2,518	3,664	6,182	4,149	1,950	6,100	6,900	8,200
親会社株主に帰属する当期純利益		17,162	4,419	21,582	3,146	1,553	4,700	5,300	6,500
ROE				38.3%			6.8%	7.5%	8%以上

(百万円)	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度 予想
売上高	77,568	85,419	85,603	88,072	87,181	89,515	89,024	82,974	77,722	79,231	86,000
前期比増減率	2.9%	10.1%	0.2%	2.9%	▲ 1.0%	2.7%	▲ 0.5%	▲ 6.8%	▲ 6.3%	1.9%	8.5%
営業利益	3,600	5,027	4,610	6,007	6,820	5,424	4,580	5,307	1,367	5,840	5,700
前期比増減率	40.3%	39.6%	▲ 8.3%	30.3%	13.5%	▲ 20.5%	▲ 15.6%	15.9%	▲ 74.2%	327.2%	▲ 2.4%
売上高営業利益率	4.6%	5.9%	5.4%	6.8%	7.8%	6.1%	5.1%	6.4%	1.8%	7.4%	6.6%
経常利益	3,741	5,294	4,645	5,321	6,248	4,587	4,388	5,045	1,652	6,182	6,100
売上高経常利益率	4.8%	6.2%	5.4%	6.0%	7.2%	5.1%	4.9%	6.1%	2.1%	7.8%	7.1%
親会社株主に帰属する当期純利益	2,406	3,590	3,755	4,107	4,089	4,800	2,623	▲8,933	▲1,618	21,582	4,700
売上高当期純利益率	3.1%	4.2%	4.4%	4.7%	4.7%	5.4%	2.9%	—	—	27.2%	5.5%
総資産額	94,257	102,345	114,049	109,030	109,342	110,994	109,706	101,853	106,535	102,660	
純資産額	60,728	67,253	76,036	74,341	53,611	58,919	59,229	46,789	46,674	66,539	
自己資本比率	63.9%	65.1%	66.1%	67.7%	48.5%	52.7%	53.5%	45.5%	43.3%	64.8%	
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,064	6,908	5,941	8,377	8,126	5,753	6,689	5,850	7,660	6,823	
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲5,697	▲3,578	▲5,690	▲6,389	▲3,080	▲1,617	▲3,388	▲4,282	▲2,322	▲3,661	
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲1,334	▲861	▲1,222	▲3,140	▲1,881	▲5,869	▲2,490	▲3,051	▲180	▲7,565	
ROE	4.1%	5.7%	5.3%	5.5%	6.4%	8.6%	4.5%	▲ 17.0%	▲ 3.5%	38.3%	6.8%

*2021年度より「収益認識に関する会計基準」等を適用しています

セグメント別四半期業績推移

(百万円)		2020年度				2021年度				2022年度		2022年度 通期予想
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	
売上高	国内食品事業計	13,498	13,592	14,480	12,942	13,503	13,465	14,255	12,905	14,303	13,927	56,000
	家庭用食品	3,992	3,361	3,422	3,233	3,419	3,239	3,145	3,124	3,264	3,104	12,350
	業務用食品	4,299	4,708	5,091	4,488	4,559	4,528	4,822	4,285	4,858	4,558	18,800
	加工食品用原料等	5,206	5,522	5,966	5,221	5,524	5,698	6,287	5,495	6,180	6,264	24,850
	国内化成品その他事業	1,460	1,495	1,700	1,547	1,616	1,661	1,750	1,589	1,690	1,802	7,000
	海外事業計	3,914	4,709	5,384	4,541	4,659	4,302	5,485	5,479	5,987	6,788	24,800
	海外改良剤	3,049	3,698	3,907	3,975	4,260	4,302	5,485	5,479	5,987	6,788	24,800
	(青島福生食品**)	864	1,011	1,477	565	399	-	-	-	-	-	-
	調整額 (セグメント間消去)	▲ 416	▲ 294	▲ 421	▲ 415	▲ 278	▲ 327	▲ 507	▲ 329	▲ 411	▲ 455	▲ 1,800
連結合計		18,457	19,502	21,145	18,617	19,500	19,102	20,983	19,644	21,569	22,061	86,000
営業利益	国内食品事業	1,286	890	1,424	1,076	1,291	1,209	1,627	810	1,312	827	3,920
	国内化成品その他事業	167	61	164	147	211	124	176	89	97	▲ 20	330
	海外事業	▲ 1,881	▲ 525	▲ 324	▲ 572	▲ 421	158	468	500	711	888	1,900
	海外改良剤	76	178	175	65	232	158	468	500	711	888	1,900
	(青島福生食品**)	▲ 1,957	▲ 703	▲ 500	▲ 637	▲ 654	-	-	-	-	-	-
	調整額 (セグメント間消去)	▲ 295	▲ 199	▲ 19	▲ 34	▲ 71	▲ 105	▲ 119	▲ 109	▲ 98	▲ 161	▲ 450
	連結合計	▲ 722	227	1,245	617	1,009	1,386	2,153	1,290	2,023	1,533	5,700

*2021年度より「収益認識に関する会計基準」等を適用しています

**青島福生食品は2021年6月に持分譲渡し、連結から除外しました